

道人寺だうにふじ

〔修学寺村の南にあり、法華宗。洛陽妙覺寺めうかくじに属す〕

禅華庵ぜんげあん

〔同所の東にあり、禅宗紫野大徳寺むらさきのだいとくじに属す〕 夢想大黒天〔画影三幅対を安ず、又木像大黒天一軀を安ず、長

五寸許、共に厨子の内にあり。当庵の開祖省峰禅師、享保十一年三月三日の夜夢の中に、大黒蛭子神を拜す。二神禅師に告て曰、汝仏道修行あらんと思はゞ、六十の寿賀に大黒天を画きて、普く諸人にあたへ給はゞ、無二の洪福あらんと、夢見る事続きて三夜なり。禅師奇異の思ひをなし、即老母をはじめ親族を聚め、祝寿の儀式を調へ、大黒天をみづから画き、諸人に与ふ事凡一万六千四百余なり。忽ち靈験ありて何国ともなく諸人こゝに詣し、かの像を授り金銭を投る事夥し、速に土蔵をいとなみ遷仏の供養ありてこゝに安置す。禅師の寿齡は八十六歳にて入寂し給ひけり〕

守禅庵しゆぜんあん

〔赤山社せきざん二町許北の山腹にあり。禅宗。開基は徹翁義亨和尚てつおうなり。大燈国師たいとうこくしの廟所あり。初めは一乗寺村じようじ円えん

光寺くわうじの後山にあり〕

大納言年名卿旧蹟だいなごんとしななきやうきやうせき

〔今の赤山明神の社地これなり〕

〔著聞集云、我朝には貞観十九年三月十八日、大納言年名卿小野をのの山庄にて、始て尚齒会を行はれける〕

山端はな

〔修学寺村の西にあり。若狭街道にして、八瀬大原の喉口なり。毎に是より北の方里々の賤女馬を追ひ、黒木真柴などかしらに戴き、あるは梯子、■槌、躑躅、忍草を携て、都に出、町小路を売ありき。又いろくの物に代かへて打つれ帰る。これを都て大原女といふ〕

養父入や牛合点して大原まで

其 角

理即院りそくゐん

〔同所西側にあり。本尊地藏尊、恵心僧都の作、坐像四尺許。一説に曰、初雲母坂地藏堂に安置する所なり

とぞ〕

赤宮

〔修学寺村の北、高野川原村にあり。祭神稲荷明神、享保年中に干菜寺勧進として此所に大相撲あり〕

宝幢寺ほうとうじ

〔高野村にあり、浄土宗西山派。開基旭移上人、寛永年中の草創なり〕

本尊阿弥陀仏 〔立像長三尺許にして、相好貴奇なり。伝云、初め江州志賀里に善光寺といふ寺あり、此所の本尊にして則本田善光が持尊なり。当寺の熏空上人此本尊を信仰して、遂にこゝに移す、伝記あり〕

帰命山蓮華寺

〔宝幢寺の北にあり、天台宗山門に属す。初めは浄土宗にして高野村の中にあり〕本尊釈迦仏〔坐

像八九寸許。寛文中賀州の老臣今枝民部近義再建して今宗と改む〕

今枝宗二居士石碑 〔仏殿の北にあり。銘文木木順庵撰す。こゝに略す。居士は近義の祖父なり〕漱玉〔井屋の額なり、

門内の右にあり〕

○〔峨山稿云、相伝原有二台麓。蓮華寺恵心僧都所二供養。後遷二蓮華寺於大通寺之側。云々〕

高野社

〔高野村東の山下にあり〕祭神早良親王〔又高野の御霊と称す、土人生土神とす。例祭は三月五日、神輿一

基、祭礼の時神幸道定らず、只神慮に任て田畑川脉に限らず、常に路なき所を渡るなり。これに逆ふ時は神輿重くして上らず。あるひは神輿の勢によつて人家の方へおもむき給ふときは、檐活檐を破らるゝ事あり。御霊の御こゝろに協はざれば、忽其所を動かずして去給はず、村民手に汗を握りて神威を恐れ奉るなり。惣じて神輿昇は、所の古老の者出て烏帽子素袴を着し、無言にして祭礼をわたすなり。真に靈応希代の例祭なり。○神名帳には出雲高野神社と見へたり。

○神祇拾遺云、八所御霊の内、崇道天皇山城国高野御霊云々〕

高野末社九神 〔諸社根元記云、加茂大明神、山王、貴布禰、いたくゝの大明神、十二所権現、山神、三輪明神、ウシノゴゼン、護擁神、已上〕

○〔いたくゝの大明神は、神名帳云、伊多太神社愛宕^{おたぎ}郡にあり、疑らくは此社歟。今高野村西の山際に森あり、社は絶たり、社領田字にあり、九月九日これを祭る、土人いたくゝ大明神といふ。○ウシノゴゼン縁起云、教ノ御前と云云。已上山城名勝志に見へたり〕